

未来をかえる人づくり

地域がつづけば、地球はつづく。



●石油・石炭・天然ガス・ウラン。どれも**限りある資源** ●世界中の
人が日本と同じ暮らし方をすると**地球が2.3個**必要 ●身近にいた
はずのスズメはこの50年で**1/10に減少** ●地球温暖化、都市への人口
集中、過疎の進行によって**巨大化する自然災害** ●食糧輸入量
5800万トン。食糧廃棄量は**1900万トン** ●2050年、地球の人口は
90億超え。日本の人口は**1億以下** ●2035年、日本人の**3人に**
1人は高齢者 ●25年前と比べ、日本の非正規雇用者は**2倍**
以上 ●世界の**1%**の世帯が、世界の家計金融資産の**39%**を保有

地域から地球の未来を変える人づくり、仕組みづくりを応援するネットワーク

協賛：各企業が取り組むESDは、ESD-Jのウェブサイトからご覧いただけます

アサヒビール株式会社、王子製紙株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、損保ジャパン環境財団、電源開発株式会社、
日経BP環境経営フォーラム、日能研、日立製作所情報・通信システム社、株式会社モンベル
パンフレット制作協力：株式会社 博報堂



認定特定非営利活動法人
持続可能な開発のための教育の10年推進会議 (ESD-J)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B2F
TEL: 03-3797-7227 FAX: 03-6277-7554
E-mail: admin@esd-j.org URL: <http://www.esd-j.org>



ラストスパートブックは米ぬか油を使用したライスインキで印刷しています。



地球や日本の危機を、
地域での身近な取り組みで乗り越えていく。
ESD を活用した
たくさんの人たちの挑戦が始まっています。

子どもたちの自尊心を育てたい。

ふるさとの食文化を残したい。

いのちの大切さを子どもたちに伝えたい。

美しい自然をずっと残したい。

障がい者とともに生きるまちづくりを。

地元で働き続けられるまちにしたい。

いじめのない学校にしたい。

笑顔一杯のまちにしたい。

地域の未来を託せる人づくり。

外国人も安心して暮らせるまちを。

いざ災害のとき、助け合えるまちに。

ボランティアに参加しやすいまちに。

世界中の子どもが教育を受けられる社会をつくりたい。

核のない世界をつくりたい。

エネルギーを自給できるまちをつくりたい。

〈表紙データの出典は、ESD-Jのウェブサイトでご覧いただけます〉

ESD (Education for Sustainable Development) とは、 持続可能な開発のための教育。

このままの状態が続けば、地球はもたない。多くの人がそう思っています。
私たちが地球に暮らし続けるためには、社会のあり方を根本から見直し、
持続可能な社会へと変えていく必要があります。

そのために私たちは何をすればいいのでしょうか。

ESD(Education for Sustainable Development=持続可能な開発のための教育)は、
人類が初めて直面する大きな課題に対して、政治家や専門家にまかせてしまうのではなく、
自らも未来をつくる一員として、学び、考え、行動する力を育んでいこうと始まった世界規模の活動です。

ESDの実践の場は、私たち一人ひとりが暮らす地域です。

地域は、人と自然のつながりや、人と人とのつながりが最も実感しやすい場所。

そこには多様な人々が暮らし、多様な自然や産業や仕事があります。

ESDは、こうしたつながりの中から、地域の魅力や課題を見つけ、
学びあい、行動することで持続可能な社会をつくっていくこと。

どんなに素晴らしい理想があっても、世界全体を変えることは簡単ではありません。

でも、ほんの少しの勇気と行動力があれば身近な地域を変えることは可能です。

じつはそれこそが世界を変えるいちばんの近道なのかもしれないのです。

場所・立場・世代。あらゆる垣根をこえた学びあいが 地域の未来を描き、未来をつくります。

日本の各地で、持続可能な社会に向けた様々な学びや活動が行われています。

それらはESDと呼ぶ・呼ばないにかかわらず、ESD的な要素を含んでいる取り組みです。

大切なのはESDの舞台である「学校」と「地域社会」の学びが互いに交流して学びあい、
立場や世代を超えた一人ひとりが主体としてそこに参加し、地域を変えていくことです。

交流

学校教育を豊かにするESD

①子どもたちが主体的に学ぶ場をつくる

- ・学習者の興味・関心を引き出す
- ・ほんものとの出会いをつくる
- ・学びを刺激し深める

②地域の人、世界の人と学びあう

- ・学校の外の人たちの協力を得る
- ・現場に出かけ、一緒に体験する

③「ふるさと未来学習」

- ・地域の歴史や文化、産業を学んだ上で、未来を描く
- ・未来を自分たちがつくる「小さな体験」を生み出す

地域社会をつなぐESD

①地域の課題・グローバルな課題を扱う

- ・地域の人々が抱える様々な課題を
解決するための学びあいの場
- ・テーマの枠を超えて学びあうと
新たな可能性が広がる

②異なる立場、異なるテーマの人々が協働する

- ・一緒に話す、一緒に汗を流すことで、
相互理解が深まる

③持続可能な地域・社会の未来を描く

- ・地域の持続可能性(環境・社会・文化・経済)を
明らかにし、その実現に向け協働する

学びあい

ESD-Jは、地域のESD活動を人づくりと仕組みづくりを通して応援します

- 学校と地域の協働の
好事例を収集・紹介
- 教員と地域の実践者が協働で
カリキュラム開発を行う場づくり
- 教育委員会と連携した
教員向けESD研修
- 学校と地域をつなぐ
コーディネーター研修

- 市民参加のプロセス・デザイン、
学びあいの場づくり支援
- 行政職員・地域のコーディネーターのための
ESD研修
- 地域のコーディネーターを支える仕組みの
事例収集・紹介
- 多様な分野のコーディネーターの
ネットワークづくり

地域の人々の協力と交流が 地域への愛着と誇りを育み 生徒たちに自尊心が芽生えてきました。

天城中学校（静岡県伊豆市）

伊豆半島の中央に位置し、豊かな自然と温泉に恵まれた天城地域。少子化が進み観光業が衰退していく中、同校では教育課題のひとつとして生徒の自尊心を高めることを掲げて様々な試みを行ってきました。しかし、学校内の限られた人間関係の中では限界がありました。

そこでESDのひとつの柱である「地域の人とのつながり、そこでの体験学習」を重視する考え方を活用し、職業体験や宿泊体験などの学習計画見直しを行ったのです。天城山のハイキングでは伊豆森林管理署や天城自然ガイドクラブの人たちにガイドをお願いし、「天城を食す」をテーマにした夕食会では地元の食材を仕入れ、保護者が腕をふるいました。生徒たちは体験学習を通して、天城にはたくさんの誇れるものがあり、また天城を愛するたくさんの大人たちがいることを知り、自分という存在にも価値があると思えるようになってきたようです。また、天城の自然が鹿の被害等で持続不可能になりつつあることを知り、何とかしたいという思いから森林管理署とのコラボレーションで「ツゲ峠鹿柵プロジェクト」を立ち上げました。

同校では、教員と地域とのつながりも強くなり、協働意欲も高まっています。

※全国のユネスコスクール（後述10P参照）を対象とした「第1回ESD大賞」中学校賞を受賞。



■ESDの進め方：すでに行っている学習に、ESDの視点を取り入れる

- ・生徒自らが体験し、考え、学びあうカリキュラムづくり
- ・学校と地域の協働で、ほんもの体験を学びの舞台に

■ESD-Jがお手伝いできること

- ・学校と地域の協働の好事例を収集・紹介
- ・教員と地域の実践者が協働でカリキュラム開発を行う場づくり

「2050年の大人づくり」を合言葉に 市内の教員が、今までの実践を さらに磨き合いESDを推進しています。

多摩市教育委員会（東京都多摩市）

急速に高齢化が進む巨大ニュータウンを抱える多摩市。地域の将来に危機感を感じた教育委員会では現在「2050年の大人づくり」をスローガンに、子どもたちが自ら未来について創造し持続可能な地域社会を築いていけるようになることをめざし、全小・中学校でESDを推進しています。

活動初年度となった2009年には、ESD-Jと連携して教員（小学校7名、中学校6名）を対象にした研修会を5回にわたり実施。ESDの基本を学び、市内で広く実践されている授業や活動とESDを結びつけていくアイデアを出し合いました。そこでの経験を踏まえて、翌年には各学校へ展開。中学校では職場体験に、その仕事につながる社会の課題への取り組みを学ぶESD的な視点を取り入れました。例えば「環境」をテーマにした場合、事前学習で環境NPOや企業の協力を得て環境問題や企業の取り組みについて学び、体験後は地域や職場への提案へつなげています。また2011年には、ESDを普及推進していくためのコーディネーターをモデル的に配属し、学校と地域の連携の支援を始めました。同夏には市全体を対象にしたESDセミナーを開催し、保護者や地域と一体となった取り組みが広がっています。



■ESDの進め方：教育委員会がESDを教育ビジョンに位置付ける

- ・教員研修にESDを導入し、実践交流を進める
- ・学校と地域の連携支援の仕組みをつくる

■ESD-Jがお手伝いできること

- ・教育委員会と連携した教員向けESD研修
- ・学校と地域をつなぐコーディネーター研修

公募市民らの熱い思いと議論のプロセスが 多様な主体間の信頼を育み まちづくりに命を吹き込みました。

ECO-net 生駒（奈良県生駒市）

豊かな自然と歴史と未来が融合したまち“いこま”を総合ビジョンとして掲げる生駒市環境基本計画（2009年4月－2019年3月）を策定したのは、公募市民と市職員らで構成される策定委員会と、策定期間中に参加したサポーター・ボランティア、そしてコーディネーター（NPO法人環境市民・奈良NPOセンター）たちでした。策定委員会では、「自分たちのまちを自分たちで良い環境にしていこう」という熱意のもと、自ら学び、広く市民の意見を聞き、月に2回、約2年間にわたり議論を重ねました。

策定委員会では地域の問題の洗い出し、解決のための課題設定を経て、自分たちが実現したい生駒の将来像として総合ビジョンをまとめました。ビジョンを実現するために議論を重ねたのが、5つの分野（共通（啓発）／自然／せいかつ／まち・みち／エネルギー）で構成される18の具体的プロジェクト。これらは全て市民・団体・事業者・行政が協働して取り組むべきプロジェクトとなっています。このような計画策定のプロセスは、計画をつくるだけでなく、その実現を担う市民や行政の成長を促し、相互の信頼を育みました。

計画策定後には、推進組織（生駒市環境基本計画推進会議・「ECO-net生駒」）が立ち上がり、エコ料理教室やみどりのカーテンの普及促進などのプロジェクトが、市民・団体・事業者・行政の協働により進められています。



■ESDの進め方：総合計画や環境基本計画を、協働で策定する

- ・多様な市民と行政職員が、共に学びあう場をつくる
- ・協働で進めるプロジェクトをつくる

■ESD-Jがお手伝いできること

- ・市民参加のプロセス・デザイン、学びあいの場づくり支援
- ・行政職員・地域のコーディネーターのためのESD研修

モザンビークの平和と 地域の問題を結びつけることで 多様な市民がつながりました。

NPO法人えひめグローバルネットワーク（愛媛県松山市）

戦争や貧困、格差といった地球規模の課題は、実は身近な生活と密接につながっています。しかし地域に暮らす人たちにとって、それらはどうしても遠くに感じられるものです。ESDのテーマでもあるこの地域と地球の関係をユニークな発想で結んだのが、えひめグローバルネットワーク（EGN）です。

EGNは、地元でできる国際協力を模索していた1998年、モザンビーク共和国で進められていた『銃を鋤へ』プロジェクト*を知り、地元で問題となっていた放置自転車を活用することを考えました。そして放置自転車をモザンビークに送るために地域のさまざまな主体が関われる場を用意し、参加を呼びかけました。その結果、市内の小学生たちによる平和メッセージの作成、工業高校の生徒たちによる自転車の修理、市民参加によるチャリティーコンサートや募金活動、モザンビークからの研修生の受け入れなどを通して多くの市民たちが参加。それぞれの活動の中で地球の課題を知り、自分たちの生活を見直すようになりました。活動が始まって10年後の2010年、EGNはこのような活動が点から面へと広がり、継続できるよう、松山市と共に「ESDコーディネーター派遣制度」を考案。11年に派遣制度がスタートしました。

※：モザンビークでは、長く続いた内戦の後に、たくさんの武器が市民の元に残されていた。この武器を現地NGOが中心となって自転車やミシンなど生活物資と交換して回収するプロジェクト。



■ESDの進め方：地域活動のコーディネーターを支える仕組みをつくる

- ・国際的な課題の解決に、地域の多様な主体の参加をデザインする
- ・社会的な活動と、学校教育をつなぐ

■ESD-Jがお手伝いできること

- ・地域のコーディネーターを支える仕組みの事例収集・紹介
- ・多様な分野のコーディネーターのネットワークづくり

「ESDの10年」は日本からの提案で始まった世界的な活動です。 2014年には、日本で総括会議が開催されます。

ESDとは、(Education for Sustainable Development＝持続可能な開発のための教育/持続発展教育)の略称。環境、人権、健康福祉、多文化共生などをテーマとして、学校、行政、企業、NPO/NGOなどが行う持続可能な社会づくりに向けた人づくりにつながる全ての活動です。

2002年のヨハネスブルグサミット(持続可能な開発に関する世界首脳会議)において、日本はNGOと政府が共同して、持続可能な社会を実現するために世界中で人づくりに取り組むことを提案しました。これを受けて現在「国連ESDの10年」(2005年～2014年)キャンペーンが行われており、世界の国々がESDに取り組んでいます。最終年にあたる2014年には、提案国である日本において最終年会合が開催されます。

□国連機関・日本政府のESD推進の主な取り組み

【国連】

ユネスコ(国連教育科学文化機関)が中心となり、ユニセフ(国連児童基金)やUNEP(国連環境計画)、UNDP(国連開発計画)、UNU(国連大学)など、国連機関が丸となってESDに取り組んでいます。日本に本部をもつ国連大学は、ESDを推進する地域の拠点をRCE(Regional Centre of Expertise on ESD)として認定し、ESD推進のための分野横断的なネットワークの形成に取り組んでいます。

【日本政府】

持続可能な開発にかかわる省庁が連携してESDを進めるべく、内閣官房のもとに11省庁が参画する関係省庁連絡会議を設置しました。また官民の協働でESDを推進するための議論の場として、ESDの10年円卓会議を設置し、各主体の取り組みに関する意見交換などを行っています。

【文部科学省】

教育振興基本計画や学習指導要領に「持続可能な社会づくり」の内容やESDが盛り込まれたほか、ESDの推進拠点として、ユネスコスクール*への加盟校増加と支援の仕組づくりに取り組んでいます。

*ユネスコスクール：ASPnet：UNESCO Associated Schools Project Network ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実践する学校を認証する国際的な制度)

【環境省】

「地球と地域の未来をつくる」というキャッチコピーのもと、官民が連携してウェブサイト上でのESDの見える化を進め、全国各地で学び合いや協働を推進する『+ESDプロジェクト』を進めています。

【外務省】

国連総会等の場においてESDの推進を積極的に働きかけています。また、国連機関への提出やODAの活用を通しての持続可能な開発分野/人材育成分野への技術協力や資金協力、JICA地球ひろばやNGO相談員制度などを活用した、国際理解教育の推進に努めています。

□ESDのあゆみ

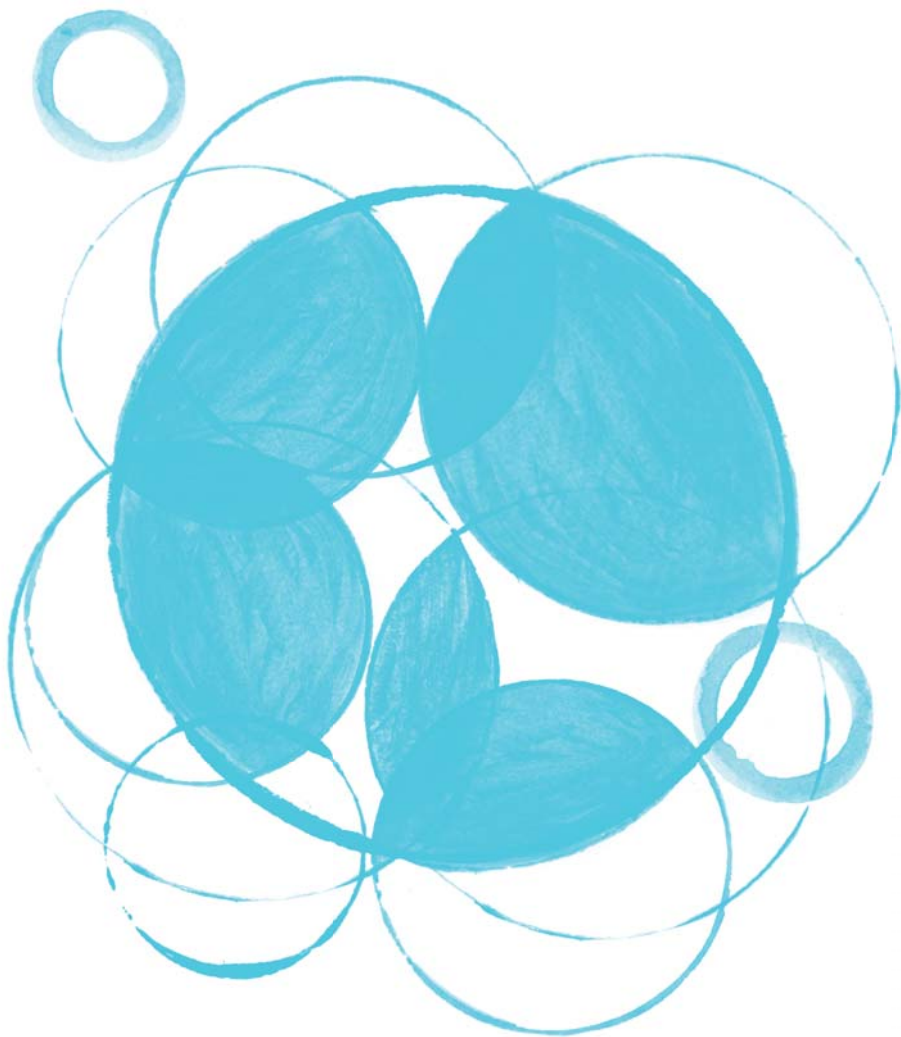
2002年8月	ヨハネスブルグサミットでESDの10年が議長提案に盛り込まれる
2003年6月	ESD-J発足
2005年3月	国連本部にてESDの10年開始記念式典開催
2005年10月	「ESDの10年国際実施計画2005-2014」確定
2005年12月	「ESDの10年」関係省庁連絡会議設置
2006年3月	「我が国におけるESDの10年実施計画」確定
2007年1月	「ESDの10年」円卓会議設置
2009年3月	ドイツにてESDの10年中間年会合開催
2014年秋	日本にてESDの10年最終年会合開催(開催地：愛知・名古屋と岡山)



ESD-J は、市民のイニシアティブでESDを推進するネットワーク。
ESDを支える仕組みづくりに取り組んでいます。

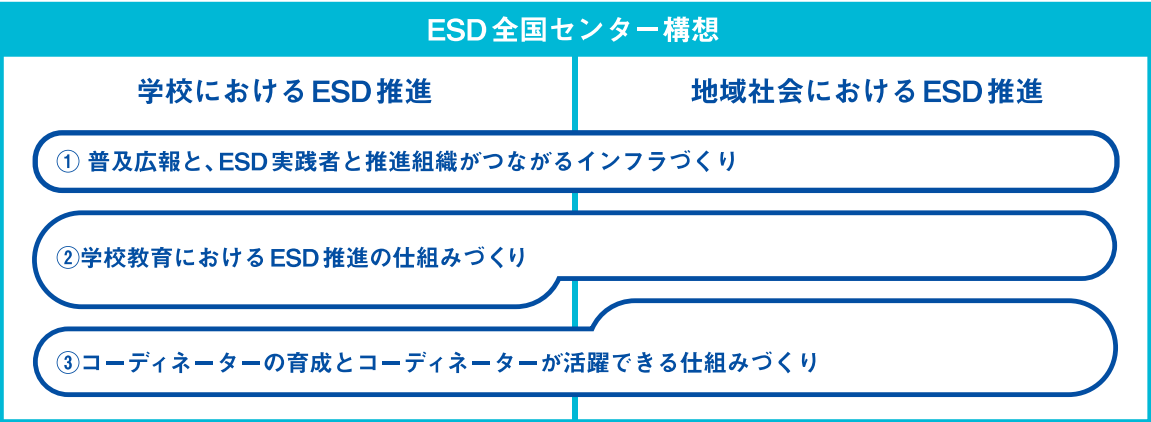
ESD-Jは、ESDにつながる多様なテーマに取り組むさまざまな立場の組織約100団体および300人の個人によるネットワークNGOです。これまで、ESDを周知するための情報発信や研修事業、ネットワークミーティングなどを開催して、ESD実践者をつないできました。また政府に対してESDの推進体制づくりを働きかけ、円卓会議の設置（2007年）、ジャパンレポートの発行（2009年）などを実現してきました。

現在、2014年に向かって地域の実践者との連携を強化し、モデルづくりなどの事業を通してESD推進のノウハウを蓄積するとともに、調査研究を進め、2015年以降の着実なESD推進に向けた仕組みづくりに取り組んでいます。



ESD-Jの2014年の目標

持続可能な社会・地域づくりのための人づくり(=ESD)
を支える仕組みをつくる



①ESDの普及広報とESD関係者がつながるインフラづくり

<目標>

行政、教育機関、NPO/NGOなど、主要な教育および社会活動の担い手に、ESDの概念が認識され、それぞれの取り組みの中に取り入れられている。

<ESD-Jのアクション>

- ・ESD実践に役立つ情報を収集・発信します。
- ・ESD推進に必要な価値観・知識・技能の修得を目的とした研修システム構築に取り組みます。
- ・アジアのESD推進NGOのネットワークの設立に向けたワークショップ、国際会議などを開催し、計画づくりに取り組みます。
- ・ESD推進関係者とともに、ESD全国センター構想を策定し、政府をはじめとする関係主体にその設立を働きかけます。
- ・+ESDプロジェクトを活用し、官民連携のESD推進の基盤システムづくりを働きかけます。

②学校教育におけるESDの推進

<目標>

地域の機関や地域社会の人々と学校との交流が進み、地域の特性・資源を活かしたESDカリキュラムの開発・実施に向けた協働が進められている。

<ESD-Jのアクション>

- ・これまで各地の教育委員会と連携して取り組んできた、学校と地域をつなぐESD研修の成果を、各地に展開します。
- ・大学や文部科学省に対して、教員養成、教員研修においてESDを導入・強化するよう働きかけます。
- ・文部科学省や地域の教育委員会に対し、学校と地域をつないでカリキュラムづくりを支援する「教育コーディネーター」が活躍できる環境をつくるよう、働きかけます。

③地域におけるESD推進／コーディネーターの育成と社会化

<目標>

市民活動の中間支援組織や社会教育施設、大学等におけるさまざまな分野のコーディネーターがESDの視点を持ち、ESDを意識した学びのコーディネートがすすめられている。

<ESD-Jのアクション>

- ・多様な分野のコーディネーター育成団体とともに、ESDの視点を持ったコーディネーターの育成に取り組みます。
- ・多様なコーディネーターの学びあいの場、課題解決のためのネットワークづくりを行います。
- ・コーディネーターを支える先駆的な仕組みを調査し、地方自治体等に仕組みづくりを提案します。

みなさんの地域や学校のESDを、 そしてESDを進める仕組みを、一緒につくりましょう

2011年3月の東日本大震災を機に、社会や暮らしのあり方を見つめ直し、転換していこうという機運が高まっているいま、地球市民の視点を持ちながら地域コミュニティに参画し、社会づくりに取り組んでいく場をつくるESDは、ますます必要性を増しています。ESD-Jでは活動の輪を広げ、その成果を高めるために、共に活動してくださる会員を募集しています。ぜひあなたも会員として参加し、あなたの意見や経験をESD-Jに反映させてください。そしてESD-Jのネットワークをあなたの活動に活かしてください。

□会員として入会すると…

1. 会員専用のメーリングリストを通じて、多様な分野の方とESDに関する議論、ESDの情報収集ができます。
2. 全国ミーティングや地域単位の会合など、ESDに関する情報共有、検討、活動推進など、皆さんのネットワークを広げる場としてご活用いただけます
3. ESD-Jの2014年目標に向けた取り組みに参加することができます。
4. 正会員は、ESD-J主催行事や書籍販売など会員価格で利用することができます。
5. 国内外や地域のESDに関する動きを紹介する「ESDレポート」をお送りします。

□入会するには…

ESD-Jのホームページ (www.esd-j.org) からが便利です。
E-mailやFAXでもお申し込みは可能ですので、事務局までお問い合わせください。

	団体会員・年会費	個人会員・年会費
正会員	1口／10,000円	10,000円
準会員	3,000円	
賛助会員	1口／50,000円	
特別賛助会員	1口／500,000円	

1 交流・学びあい	地域で、学校で、大学で、企業で、ESDに取り組もうとしたとき、全国の多様なメンバーが、あなたのよき相談相手になります。 ・ESD-J会員メーリングリスト ・地域ミーティング ・全国ミーティング
2 情報収集	国際的な動向、政府の動き、地域の動きなどESDの今を知ることができます。 ・機関紙『ESDレポート』 ・ESD-J WEBサイト ・ESD研修・セミナー
3 研究・提言	ESDはどうあるべきか？ 必要な仕組み・政策とは？ ESDのこれからを一緒に考え つくっていきましょう！ ・各提言づくりワーキング への参加 ・各種勉強会／研究会
4 ボランティア	ESDを学びながら、 ESDをつくる・支える活動に 参加しませんか？ ・学生勉強会 ・事務局サポート ・各種ESDイベント・セミナー へのスタッフ参加

□ESD-Jを支えてください

ESD-Jは認定NPO法人です。ESD-Jへのご寄付は税制上の優遇措置が受けられます。

ESD-Jの会員ネットワーク(2012年4月1日現在)

<団体正会員>

(公財)ボーイスカウト日本連盟
(公財)キープ協会
(公財)ユネスコ・アジア文化センター
(公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)
(公財)日本YMCA同盟
(公財)日本ユニセフ協会
(公財)日本野鳥の会
(一財)京都ユースホステル協会
(財)日本環境協会
(財)北海道国際交流センター
(公社)ガールスカウト日本連盟
(公社)日本ユネスコ協会連盟
(公社)日本環境教育フォーラム
(公社)青年海外協力協会(JOCA)
(一社)あいあいネット
(社)日本ネイチャーゲーム協会
(社)農山漁村文化協会
(社)部落解放・人権研究所
(宗)櫻木神社
(株)フルハシ環境総合研究所
(株)日本エコプランニングサービス
(有)プラス・サーキュレーションジャパン
NPO法人ECOPLUS
NPO法人エコけん
NPO法人エコ・コミュニケーションセンター(ECOM)
NPO法人えひめグローバルネットワーク
NPO法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター
NPO法人くすの木自然館
NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター
NPO法人グローバルプロジェクト推進機構JEARN
NPO法人コモンビート
NPO法人しずおか環境教育研究会(エコエデュ)
NPO法人ほっとねっと
NPO法人ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし
NPO法人やまぼうし自然学校
NPO法人開発教育協会
NPO法人環境市民
NPO法人環境文化のための対話研究所
NPO法人岩木山自然学校
NPO法人国際自然大学校
NPO法人国頭ツーリズム協会
NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット
NPO法人自然育児友の会
NPO法人自然体験活動推進協議会
NPO法人生態教育センター
NPO法人地球と未来の環境基金
NPO法人地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)
NPO法人当別エコロジカルコミュニティ
NPO法人これからの学びネットワーク
NPO法人フォーエヴァーグリーン
エコテクノロジー研究会
くりこま高原自然学校
こくさいこどもフォーラム岡山
サステナブル・アカデミー・ジャパン
日本ソーラーエネルギー教育協会
ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーン(GCPEJ)
ホールアース自然学校
岡山ユネスコ協会
岡山大学ユネスコチュアプログラム
学校法人日本自然環境専門学校

環境・国際研究会
環金武湾地球温暖化対策地域協議会
国立大学法人岩手大学
国立大学法人筑波大学 農林技術センター
国立大学法人北海道大学
堺市女性団体協議会
サス塾
ジャパン・フォー・サステナビリティ
世界女性会議岡山連絡会
仙台いぐね研究会
仙台広域圏ESD・RCE運営委員会
創価学会平和委員会
田んぼの楽校
日本アウトドアネットワーク
日本ホリスティック教育協会
日本環境ジャーナリストの会
平和の文化をきずく会
北九州ESD協議会
ほっと村
養生庵
立教大学ESD研究センター
緑の環・協議会
岡山市
北九州市

<団体準会員>

(株)トクラフト・プラス
(一財)アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)
(財)水島地域環境再生財団
NPO法人いしかわ自然体験支援隊
NPO法人あしたの国まちづくりの会
NPO法人里山倶楽部
NPO法人水・環境ネット東北
ネイチャークラブ東海
ESDキッズクラブ
水を考える女性会議
杉並エコ・スクール研究会
山陽女学園中等部・高等部
伊豆市立天城中学校
かつしか足立自然教育研究会
里山学校

<連携交流団体>

国際協力機構 地球環境部
JICA 地球ひろば
国際連合大学高等研究所
国際連合広報センター(UNIC)
国際連合人口基金東京事務所

<特別賛助会員>

(株)日能研

<賛助会員>

(公財)旭硝子財団
王子製紙(株)
(株)損害保険ジャパン
(公財)損保ジャパン環境財団
東洋製罐(株)
パナソニック(株)
(株)日立製作所 情報通信システム社
(株)モンベル